

第1回 多治見市教育行政評価委員会 議事要旨

【日 時】 令和6年10月11日（金）午前13時半～午後15時40分

【場 所】 多治見市役所駅北庁舎4階第2・第3会議室

【参加者】 最終頁名簿のとおり

【内 容】 1 教育長挨拶

2 委員長及び副委員長の選任

3 多治見市行政評価報告（令和6年度前期分）

（0）令和6年度前期の主なできごと

- | | |
|--------|--|
| （委員） | 校内教育支援室を利用するにはどのような手続きがいるか？ |
| →（事務局） | 長期的に利用する場合は、担任と保護者が話し合い、本人の意向を踏まえて利用を決めている。 |
| （委員長） | ほほえみ相談員とトライサポーターの業務分担はあるか。 |
| →（事務局） | 連携をしながら役割分担している。基本的には、トライサポーターは主に学習指導、ほほえみ相談員は相談業務としている。 |
| （委員） | トライサポーターを配置しているモデル校は小中1校ずつであるが、今後拡大する予定か。 |
| →（事務局） | 予算上の問題はあるが、ニーズはあるため拡大していきたいと考えている。 |
| （委員） | 不登校の人数はどれぐらいか。 |
| →（事務局） | 300人は超えている状況である。今年度は微減となっている。 |

（1）学力・体力を高める教育・保育の推進

- | | |
|--------|--|
| （委員） | タブレットが子ども達に支給されたことで、教員の教材研究等の時間の短縮等にはつながっていると思うが、学力向上につながっているか。 |
| →（事務局） | イメージしにくいものを写真や動画で見ることができ理解が深まっていると感じる。しかし、それが学力調査で成果としてあがっているかは判断できないところである。 |
| （委員） | これから研究を重ねて検証するということか。 |
| →（事務局） | 効果的なタブレットの使い方を研究しながら成果を検証していきたい。 |
| →（事務局） | 公立の学校は、タブレットの導入が同じ時期であるため、学力向上の検証が難しい。先行して導入していた私立の学校にどのような方法で評価したらよいか伺いたい。 |
| （委員） | 過去のデータと比較してはどうか。 |
| →（事務局） | そこも含めて検証する方法を考えていく。 |
| →（事務局） | 先進的な取組をしている学校もあるため、良い交流ができればよいと思う。 |
| →（委員） | 子ども達から分からないものが分かった等の意見は届いているのか。 |
| →（事務局） | 特別支援学級在籍の児童から話しは聞くが集約はできていない。 |
| （委員） | P11の「教科の勉強は好きですか」の国語の結果をみると、これまでより良い結果があるが何か理由があるか。 |
| →（事務局） | 理由は分からないのが現状である。 |
| （委員） | P6の運動の楽しさを感じる取組について詳しく教えて欲しい。 |
| →（事務局） | 4月に体力測定を実施し、12月に再計測する種目もある。その過程で、体力測定用のア |

- プリ「アルファ」を利用し、自分の結果から得意なところ、苦手なところを知り取組に繋げている。
- (委員) 体力測定の数値が上がり、それを先生が褒めてくれる、そのことが子どもの力になると思う。
- (委員) 多治見市 ICT 活用ガイドブックは多治見市独自のものか？
- (事務局) ICT 推進員を中心に作成している。
- (委員) 多治見市では、100%除去食対応を実施していることに感謝している。
- (委員) タブレットを授業の中で活用している姿を授業参観で感じる。

(2) 社会性と豊かな心を育む教育の推進

(3) 家庭、学校・園、地域の連携の推進

- (委員) 地域の方や外部の講師の方の職業に関する話を聞くことは、子ども達の視野を広げたり、郷土愛を育むことになったりするため、非常に重要である。将来地元で子育てすることに関わると大変良い。
- (委員) 青少年会議所の地元企業の役員も地元の子供達に企業の話をし、採用に繋げていきたいと思っているため、連携して欲しい。
- (委員) パパママ教室の日曜開催を増やすことにより効果があったか。
- (事務局) 参加者は増えたと感じる。パパ同士の交流の機会もある。

(4) 多様な課題に応じた支援の推進

(5) 学びを支える教育環境の充実

- (委員) ブラジルの子供達に通訳が付き添っていると聞いたがどうか？
- (事務局) 通訳ではなく、支援員のことであると思う。日本に慣れるための初期指導の段階では、丁寧に支援を実施しており、徐々に時間を減らしている。
- (委員) 不登校の理由は様々であるが、その1つにジェンダー（制服）の問題がある。制服についてジェンダーレスになっている自治体もあるため、多治見市でも統一して変えてもらえるとありがたい。
- (事務局) 制服は、自治体全体で一斉にジェンダーレスの制服に切り替えているところもあるが、本市では、学校や保護者が主体となって進めるのではなく、子どもの意見を尊重し、ジェンダーについて考えることこそ重要であると考えている。現在、8校中2校がジェンダーレスの制服に切り替えている。他の学校についても、学校や保護者、生徒から話があがった際は、丁寧に進めていきたいと考えている。
- (委員) 日本語支援が必要な児童生徒にも丁寧な対応をしていると感じる。
- (委員) ハイパーQ Uについては、個々の児童について担任が結果をみて対応していくということか？
- (事務局) 結果により学級の傾向を把握することができるため、専門家による研修会での内容を踏まえたうえで、学級経営に活用している。
- (委員) 外国籍等生徒を対象とした進路説明会はいつから実施しているのか。
- (事務局) 令和2年度から実施している。
- (委員) 不登校に対する方針はどのようなものであるか。フリースクールについてはどのように捉えて

- いるのか。
- (事務局) 不登校の基準は、国の基準によると年間 30 日となっている。国も見直しの動きがある。本市においては、学校と繋がらない子を一人でも少なくするように取り組んでいる。フリースクールについては、学校と連携がとれること、カリキュラムがしっかりしていること等を踏まえて、学校長が認める場合は、指導要録上出席としている。フリースクールに通っている方は小学校 7 名、中学校 3 名いる。瀬戸市のフリースクール通っている方が多い。
- (委員) 育児休業中は、学童を退所しなければいけないと聞くがどうなっているか。
- (事務局) たじっこクラブは出産予定前 2 か月、出産後 3 か月は認めている。それ以後も保護者は大変であると思うが、就労している家庭を優先させないといけない状況である。
- (委員) 特別支援教育について、コーディネーター研修会を開催したり、中学校区別研修会によるコーディネーターのつながりを構築したりしたことは、とても意義がある。

4 意見交換

- ・多治見市の教育についてよく知ることができてよかった。
- ・自ら学ぶ姿勢をどの施策でもベースにおいて欲しい。
- ・不登校については、学校と繋がらない子を減らすという取組についても言及した報告書になるとよい。
- ・自ら学び、挑戦するよう子ども達を育てていく先生、働き方改革等で先生を支える教育委員会が分かる資料であった。これからお願いする。
- ・学力が向上している原因、また学力調査の結果について現場の先生がどのような分析をしているかが分かるとよい。

5 その他

事務局連絡

● 多治見市教育行政評価委員会 委員等名簿（敬称略）

委員

名前	所属・役職	その他
武者 一弘	中部大学教授	委員長
安田 悦子	元笠原小学校校長	副委員長
中澤 香代	元教育委員	
三和 義幸	多治見西高校職員	
瀬古 梨絵子	令和 5 年度多治見市 PTA 連合会副会長	